

第1部

厚生労働省改革元年
～「役所文化」を変える～

はじめに

厚生労働行政は命を守る政治の要であり、国民の皆様への期待には大変高いものがあります。

一方で、厚生労働行政に関しては、年金記録問題や薬害肝炎問題を始め、国民の信頼を失墜させる問題がありました。

社会保障は安全保障と並び、国家の礎（いしずえ）です。厚生労働省が担う社会保障は、国民の日々の生活に直結するものであり、担い手たる行政と国民との信頼関係なしには成立しません。国民の皆様からの信頼を失墜させる問題により、担い手たる厚生労働省が自らその基盤を崩してしまってきたことは誠に申し訳なく、率直にお詫びを申し上げます。

高齢化の進展に伴う年金、医療、介護等の給付費の増、少子化対策や貧困の問題、経済状況の変化に対応した雇用対策等を始め、多額の財源を要する厚生労働行政に対し、国民の皆様にご理解をいただくためには、これまでに生じた問題について真摯に反省し、自ら襟を正して業務の見直しや改善に取り組むことを通じ、心から信頼される厚生労働行政へ立て直さなければなりません。そのため、「生活者の立場に立つ信頼される厚生労働省」を平成22年版厚生労働白書のテーマとし、第1部を「厚生労働省改革元年～「役所文化」を変える～」として課題に正面から取り組んでいる姿を国民の皆様にお示しすることとしました。

第1部では、第1章で特に旧社会保険庁をめぐる問題と薬害肝炎問題を取り上げ、それらの反省点について改めて整理致します。第2章では、これらの問題を踏まえた年金・社会保険行政や医薬品行政、健康行政における取組みを記述するとともに、組織の旧弊を改めるべく、経費の削減やムダの排除、さらには根本的な厚生労働省の役所文化そのものを変えて国民目線での業務を行うための体制づくりに向けて進めている取組みについて紹介致します。